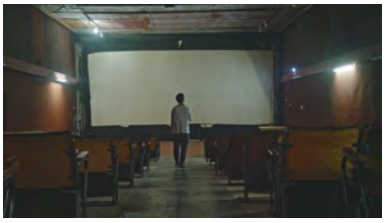
ShugoArts

山本篤・映像小屋
29 July – 9 September, 2023
全7作品 35min. 11sec.

1

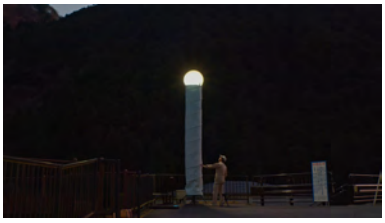


《映像小屋》2017 - 2023, 3min. 40sec.
2018年アフリカ ザンビアの街で見つけた小さな映画館。入ると映画ではなく教会の集会が行われていた。集会も映画も皆で同じ体験をするという点で共通しているのだろう。芝居小屋のような映画館を撮影しながら、カメラ ⇔ 映写室⇔映画館という3つの箱が被写体と鑑賞者をつないでいるという現実に思いをはせた。

2

《ある山の一日》2023, 1min. 36sec.
私は丘陵地帯で生まれ育ち、今も同じ場所に住んでいる、海よりは山を身近に感じてきた。海が日の光で表情を変えるように、山が季節や時間・光によってその表情を変えることを知っている。そして海の中は知らないが、山の中に人を含めた動物や植物が沢山うごめいていることを知っている。

3

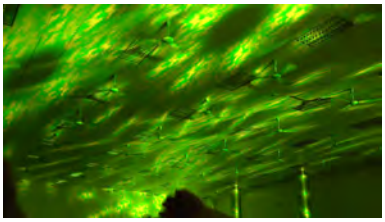


《山の灯台》2023, 8min. 18sec.
灯台の機能は、航路の目印になることであるが、現在はGPSの普及によりその元来の存在価値が失われつつある。灯台が航海者にとって陸地の存在を示唆する要素となりえるのであれば、見晴らしの悪い山間部に立てられた灯台は何の存在を示唆するのだろうか。光ることは存在を伝えることでもある。

4

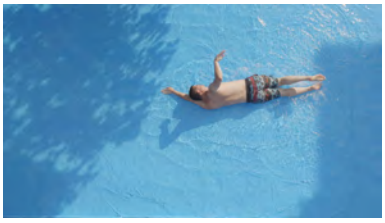
《Dead heat》2023, 2min. 06sec.
先が見えない、そして決められた道もないサーキットの中を、私たちは、友人や他人と競いながら走り続けている。

5



《イメージと熱狂と忘却》2018 - 2023, 6min. 28sec.
ベトナムの大学で行われたライブの映像。集まった若者たちは、演奏しているバンドのファンだったわけでも、元々知っていたわけでもないのに、音楽に合わせて踊り頭を振っていた。私には若者たちが、バンドでも音楽でもなく、ただただ熱狂と忘却を求めているように見えた。会場の上方には、多数のファンが、ヘリコプターのプロペラのように回転していた。

6



《泳ぐ人》2023, 4min. 05sec.
水が体より深くないと泳げない。泳ぐときは大抵水面を泳いでいる。当たり前のことだけれど、意識することはない事実。時々、直感的に制作を続ける自分は浅いところを泳いでいるのではないかと考えることがある。

7

《The ghost from the city of ghosts》2019 - 2023, 8min. 48sec.
ベトナム フエ近郊 に「city of ghost」と呼ばれる、お墓群であり外国人が訪れる場所がある。華美なそのお墓は城のようでもあり、私はつい同じく華美なアオザイをした貴族の幽霊を想像した。季節は旧正月（テト）、フエの街は、華美なお墓のように華やいでいた。